

木村よしお通信

2019
第5号

[東京事務所] 〒100-8962 千代田区永田町2-1-1-305 TEL:03-6550-0305 / FAX:03-6551-0305
[高松事務所] 〒760-0068 香川県高松市松島町3-22-4 TEL:087-833-2251 / FAX:087-833-0433

発行 / 自民党参議院比例区 第七支部

◎革命的な教育制度 「マイスター制度」

皆さんは、ドイツの「マイスター制度」をご存知ですか？これは、義務教育段階における早期の時点で「進学コース」や「職業訓練コース」など、その生徒の特性や関心に応じて進み方を選ぶことが出来る制度です。

制度自体にはもちろん考慮すべき点などもありますが、その制度が成り立つ背景の1つに「ドイツの大学には偏差値が存在しない」という社会構造があります。

日本においても、偏差値という枠や決まり切った道筋に無理やり子ども達を押し込める教育環境を変えるべきではないでしょうか。私は、より多様な進み方が実現される日本の教育に向けて、マイスター制度等の活用に着目しております。

◎多様な選択肢を見せるには、 多様な経験を積んだ教師が必要

上記のような考えや構想を抱いていた所、先日、ビジネス界最前線での経験を活かし学校経営を行う鈴木 淳氏と対談する機会がありました。鈴木氏は、ユニクロで知られるファーストリテイリングの幹部を務める等、ビジネス界での多様な経験を積まれた後、



現在は文理開成高等学校の理事長ならびに校長を務めていらっしゃいます。鈴木氏のビジネス経験は学校経営の抜本的な改善にも活かされ、そして教員や生徒たちの視野を広げる上でも大きな価値となっていました。

◎「人」から始まる、本質的な 教育改革を進めよう

このような他国の教育事例や、教育現場の最前線で活躍される方々と実際にお会いして教えられる事は「改革は人から始まる」という事。子どもの特性や興味に応じて多様な進み方が保障される教育環境を作るには、それだけ

多様な経験を積んだ人、広い視野を持った人が必要です。

現在、私は自民党の認定こども園振興議員連盟の会長を務めておりますが、幼児教育のみならず幅広い教育を、様々な領域で活躍される方と手を取り合って協働する重要性を改めて実感しています。

「教育」という言葉で一括りに考えるのではなく、現場に携わる「人」との対話を重視し、皆さまの多様な生き方に対応できる教育制度作りなど、これからも日本教育の改革に尽力して参ります。

(木村 よしお)

～今月の話題～

“人”から始まる教育改革を 目指します





来年度実施の教育改革と リカレント教育について

◎2020年に実施される 全面的な教育改革

2020年に本格的に実施される教育改革は、実に42年振りの全面的な改革で2018年～2019年はその移行期間となります。小学校3年生から英語教育が始まったり、プログラミング教育も必修になるという話を聞いた方もおられることと思います。

これらは全て学校教育の指針となる学習指導要領で決められるのですが、私は学校教育をもっと幅広く捉えるべきだと考えています。

◎リカレント教育とは

その一つにリカレント教育があ

ります。リカレント教育とは、経済協力開発機構(OECD)が提唱した生涯教育の一形態で、一度社会に出て働いてからまた学び直しができる循環・反復型の教育システムのことを言います。学習指導要領による義務教育も大切ですが、多様な学び方、教育の選択肢がもっとあっていいと私は思うのです。

◎多様な学び方・働き方を 受け入れられる社会に

例えば習得保持制度です。一旦社会人になってからも、以前取得した単位を活かせるような仕組みがあれば、多様な学び方・進み方が実現されるのではないのでしょうか。アメリカやイギリスで年齢差別が禁止されているよう

に、日本でも定年退職制度を無くし、働きたい人や能力のある人は、年齢で区切らずに働ける社会であってほしいと思っています。

◎柔軟な教育制度を目指して

そして教育の場についても、いつからでも自由に学べ、チャンスを広げられる教育制度が必要だと思っています。

2020年、教育改革により制度が新しくなります。私もリカレント教育という視点で、新しい教育の在り方の定着に向けて、柔軟な教育制度の構築に、これからも尽力していきたいと思っています。

(木村 よしお)

木村よしおのちょっと昔話

第5回 感動したミュージカル

◎初めて観劇した 「レ・ミゼラブル」

今年で結婚31年目となる妻との新婚旅行でイギリスを訪れた時、初めて「レ・ミゼラブル」というミュージカルを観ました。実は私、オペラや演劇をはじめ、映画「スターウォーズ」なども大好きでして…。そんな私は、「レ・ミゼラブル」を観て、とても感動したことを覚えています。

◎演出家と語り合った時

一人娘が大学で演劇ゼミに入り、そのゼミの先生を介してお会いした演出家の安田 雅弘さんとお話する機会がありました。

そのお話の中で、安田さんがこう仰ったのです。

「病院は傷を治す場所。学校は教育を受ける場所。そして劇場は、心を癒す場所なんです」

◎演劇教育の普及にも 取り組みたい

確かに、心を癒す場所として劇場がもっと身近になれば、日常の中でついつい気落ちしてしまった子どもにとっても大人にとっても、1つの支えが増えるのでは、と思いました。

また、演劇を通じた表現力やコミュニケーション力、自分と



向き合う力の鍛錬は教育的にも大きな意義があると思います。

今後は、「演劇教育」という分野にも注力していきたいと考えております。私には、まだまだ実現したい事がたくさんあります。それを実現させるために、日々皆さまのお声を伺い、邁進して参ります。そう、止まっている時間はないのです！

(木村 よしお)

活動報告

このコーナーでは、木村よしおが行った主な活動などをご報告させていただきます。活動についての詳しい内容や詳細は、各種 SNS や木村よしお公式 HP 内にあります、週刊木村よしお (<https://kimuyoshi.net/report/>) などをご報告させていただいておりますので、ぜひご覧ください。

2018年12月11日(火) 厚労部会出席～報道ライブインサイドアウト収録	2019年2月1日(金) 参議院本会議
2018年12月12日(水) 厚労部会出席～政策審議会出席	2019年2月5日(火) 浄化槽推進議員連盟出席
2018年12月13日(木) 厚労部会出席～知的障害者議員連盟設立総会～長岡市訪問	2019年2月7日(木) 参議院本会議
2018年12月14日(金) 在留外国人医療ワーキンググループ出席～自民党総務会出席～山形県訪問	2019年2月8日(金) 全国栄養士養成施設協会会合出席
2018年12月15日(土) 香川県～平井卓也氏大臣就任祝賀会に出席	2019年2月10日(日) 自民党大会出席
2018年12月17日(月) 香川県 小豆島訪問	2019年2月11日(月) 埼玉県式典出席
2018年12月18日(火) 医師の働き方改革PT～外国人労働受け入れに関する合同会議	2019年2月12日(火) 虐待に関する特別委員会参加
2018年12月19日(水) 厚生労働部会	2019年2月15日(金) 臨床工学技士議員連盟参加
2018年12月20日(木) 外国人労働受け入れに関する合同会議～鳥取県訪問	2019年2月19日(火) 横浜にて会合出席
2018年12月21日(金) 自民党総務会出席～香川県	2019年2月20日(水) 議員会館にて教育についての勉強会主催
2018年12月23日(日) 島根県訪問～BS朝日激論クロスファイア出演	2019年2月21日(木) データヘルス推進特別委員会出席
2018年12月25日(火) 香川県～テレビ朝日報道ステーション出演	2019年2月24日(日) 天皇陛下御在位30年記念式典
2019年1月1日(火) 新年祝賀の儀	2019年2月25日(月) 宮中茶会出席
2019年1月4日(金) 高松にて新年のご挨拶回り	2019年2月26日(火) 神奈川県会合出席
2019年1月8日(火) 香川県 新春賀詞交歓会に出席	2019年2月27日(水) 薬事に関する合同会議出席
2019年1月15日(火) 群馬県訪問	2019年2月28日(木) ODA特別委員会出席
2019年1月16日(水) 東京にて新年会出席	2019年3月1日(金) 自民党総務会出席
2019年1月18日(金) 福岡県～佐賀県訪問	2019年3月2日(土) 奈良県会合出席
	2019年3月4日(月) 新潟県訪問 会合に出席

ともすもとからのご案内

◎ともすもとホームページがリニューアルいたしました

この度、ともすもとのホームページがリニューアルいたしました。記事が探しやすく、より見やすくなり、対談の様子を分かりやすくお伝えできるホームページとなるよう、デザインや構成を改善いたしました。

今後も、境界線や壁を乗り越えていくための「心の中に火を灯す素（もと）」をスローガンに、対談相手の活動に「寄り添う」スタンスを変わらず続けて参ります。

今後ともよろしくお願いたします。



<https://tomosumoto.jp/>

秘書ハラシマの部屋

◎インフルエンザよりも花粉が怖い今日この頃

皆様こんにちは。今年の冬はインフルエンザが大流行しましたが、皆様は体調など崩されていませんか？実はいんフルエンザより、その後の花粉シーズンの方が怖い秘書の原島です。今回もどうぞお付き合い下さい。

木村事務所はおかげさまで、木村先生を含めてインフルエンザの感染者は出ておりません。しかし、私を含め東京のスタッフは全員が花粉症です。症状も人それぞれで、薬・マスクをはじめ万全の

対策を取らないと外に出られない者、薬などは飲まずに気合いで乗り切る者、それぞれで差がありますが、私の場合は前者です。木村先生も花粉シーズンになるとたまに、くしゃみや鼻をかんだりしますが、当の本人は頑なに花粉症であることを否定しています(笑)。

◎先生、窓を開けたら…

木村先生は、車に乗るとよく窓を開けて空気の入換えをしますが、私としては花粉シーズンの時は内心「やめてくれえ！」と思っております。案の定、私がかくしゃみをする、「あっ、花粉症だった

ね。ハッハッハッ。」と窓を閉めてくれます。私に同情していただける方もいるのではないのでしょうか(涙)。



花粉症に負けず頑張ります！

皆さまの中でも花粉症の方は多いと思います。花粉にもスギ・ヒノキ・カバノキなど様々な種類があり、症状も人それぞれですが、花粉症に負けず、今年も万全の対策で乗り切ってまいりましょう！ (原島 潤)

木村よしお 通信からの お知らせ

「木村よしお通信」へのご意見・ご感想、取り上げて欲しい話題やテーマなどがございましたら、下記メールアドレスまたは、木村よしおfacebook、事務所までのお手紙などでご連絡をいただけますと幸いです。

◎メールアドレス：yoshio_kimura01@sangiin.go.jp

◎木村よしおfacebookページ (<https://www.facebook.com/kimurayoshionet/>)

木村よしおTVのご案内

ホームページ内に「木村よしおTV」を開設いたしました。

◎私の想いや活動をよりわかりやすく・より知っていただくために

この度、木村よしお公式ホームページ内に、動画コンテンツ「木村よしおTV」を開設いたしました。

木村よしおTVでは、私の想いや活動について、よりわかりやすく・より知っていただけるようにと、政策動画やプロフィール動画、各界のリーダー・著名人との対談動画（教育制度・医療改革について）など、様々な動画をご覧いただくことができます。

ニュースレター冒頭でご紹介いたしました、文理開成高等学校の理事長・校長である鈴木 淳氏との対談の様子がアップされておりますので、是非ともご覧いただければと思います。動画コンテンツは随時追加して参りますので、今後もぜひご期待ください。

（木村 よしお）



木村よしおTVはこちらからご覧いただけます

URL :

https://kimuyohi.net/kimura_tv/

アクセス方法 :

Google、Yahooで と検索 → 木村よしお HPへアクセス → ページ中段の「木村よしおTV」のバナーをクリック

※QRコードを読み込んでアクセスいただくことも可能です。



安友子's Talk

◎未来の学校教育に思う事

こんにちは！木村よしおの長女で、秘書の木村安友子です。

今回は「教育」がテーマということで、私なりに学校教育について思うところを書いてみたいと思います。

私は、父と母から「勉強しなさい」「宿題やった？」「テスト何点だった？」と言われることがありませんでした。両親は私の自主性を尊重し、伸び伸びと自分のペースで学業や物事に取り組む環境を作ってくれていたのだと思います。しかし、自分のペースでできる反面「やるべきことをやらなければ、自己責任になるんだ」という事は、小さい頃から意識していた記憶があります。そういった環境に合う・合わないは人によるとは思いますが、自分自身で計画したり設定したりするのが好きな私には合っていたように思います。

もちろん、今になって「あの授業、ちゃんと聞いていれば良かったなあ」と思うことも沢山ありますが、自分の好きなことを追求させてもらえたのは、本当にありがたいと感じています。

◎自己表現力の重要性

いまのお仕事をさせていただいて感じるのは、これからの時代は「議論する力」が必要になってきているという事です。個人が持つ才能・能力だけでなく、アピール力も必要になり、またその人が持つ精神面もフィーチャーされるこれからの時代、他者を理解するだけでなく、自分自身の事も理解し、自分の内面ともコミュニケーションをとる重要性も増してきています。

海外では、どの大学にも「ドラマ」という専攻科目があります。これは俳優や女優を育てるための科目ではなく、自己表現力や

アピール力、他者とのコミュニケーション力を学ぶためのものです。これらを学校教育の場で学ぶことは、実社会に出てからとても役に立つと思います。演劇が好きな私としても、そういったことを学べる環境があるということが、羨ましく思うと共に、素晴らしいことだと感じています。

◎日本での表現教育がより身近になるような政策を

日本の学校教育にも「勉強ができる・運動ができる」といった従来のベクトル以外の、自己表現力やアピール力などの、新しい評価基準が生まれればな、と思っています。父は、表現教育の推進に非常に高い意識を持って取り組んでいます。私も色々なアイデアを出し、より人生の選択肢が広げられるような、父の政策作りのサポートをしていけるように頑張っています。

（木村 安友子）